

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200054		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホーム大浜	ユニット名	
所在地	長崎県五島市浜町142-1		
自己評価作成日	2020年7月21日	評価結果市町村受理日	2020年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年8月3日	評価確定日	2020年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域とのつながり交流や外出支援ができるように参加し出向いたり来ていただいたりしながら、生き生きとした毎日を暮らしてほしい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホーム大浜”は、2012年から「社会福祉法人さゆり会」の運営となっている。職員の研修体制も更に充実し、職員個々のスキルアップに応じた異動も行われているが、前理事長の思いも大切にされた運営が行われてきた。2020年4月、系列のグループホームの管理者をされていた方が新管理者を務めており、人員体制や職員の体力等を丁寧に見極め、職員個々の意見も集約しながら業務改善を続けてこられた。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、家族との面会ができず、外出制限もある中、日々の楽しみを増やす取り組みも行われ、流しそうめんやバイキングを行ったり、入居者がお好きな丼ぶりやちらし寿司、炊き込みご飯なども楽しませている。今後も入居者個々の思いを記録に増やすと共に、更なる災害対策の取り組みを行っていく予定である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護の理念の唱和を継続し、共有と実践に努めている。	2020年4月から新体制になっている。「一人一人をありのままに受け入れて、その方が持てる力を引き出し、みんなと一緒にゆつくり、楽しく、おだやかに生活して頂きます」という理念の共有と実践に努めてこられた。その方が持てる力を引き出せるように職員の余裕作りにも努めてこられた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に参加しており、各種行事には積極的に参加している。ホームの行事にも地域の方々への参加を呼びかけている。小学生との交流も定期的に行っている。	新管理者が地域の方へのご挨拶回りを行った。新型コロナの流行前は地域の運動会や草刈り、敬老会、餅つき、小学校の学習発表会や入学式、卒業式に参加されていた。近所の方から芋の苗や野菜の差し入れもあり、お礼に「お弁当」や紫蘇ジュース等をお届けしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な運営推進会議の時に話すことで、理解していただくよう、努めている。 小学生が福祉の勉強に訪問に来た際、認知症の人の理解や支援、協力に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者のヒヤリハットや事故報告、職員の研修報告を行い、委員の方に意見を伺いながら、役立てている。	2020年度は新型コロナの影響で会議を中止している。参加者個別にホームの取り組みや職員研修内容、外部評価結果、事故報告等を報告し、ご意見を頂いており、各内容を報告書にして五島市に提出している。新型コロナが終息し、ホームで会議が開けることを管理者も願っておられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、必要な時に話し合いができる関係ができている。	2020年春の新体制(管理者交代等)の報告を行うと共に、新型コロナ感染症対策で運営推進会議の開催方法等を含め、随時五島市の職員と情報交換を続けてこられた。コロナ禍以外でも、季節に応じて五島市から感染症情報や災害対策等のメールを頂き、日々の対策に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしない方針だが、不穏状態で徘徊し、施設より出て事故やケガなどが起きないように、職員が1名で対応する時、どうしても時は玄関を施錠するが、普段は施錠せず対応している。	身体拘束適正化委員会も3か月に1回以上行い、最低年2回は研修を受けている。入居者の意思決定を大切に声かけを行い、ご自分のペースで生活できる環境を作り、日々の役割も作られている。喜怒哀楽の原因を分析し、主治医からのアドバイスを頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、ミーティング時に意見を出し合うなどし、日々のケアでも意識して行うように心がけている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所者の中にも利用されている方がいるので、日常生活自立支援事業や成年後見制度などについて、知る機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、まず管理者が行い、理解、納得をしていただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者には、日々のケアを通じて意見を聞き、ご家族には面会時や請求書発送時、必要な時は電話連絡をし、近況報告をしている。	面会時や電話で日々の暮らしぶりや健康状態等を報告し、不安や要望の把握に努めている。新型コロナウイルス流行前は敬老会やクリスマス忘年会等で家族と食事をする機会を作り、会話を楽しんでいた。島外に住む家族もおられ、電話などで情報交換を続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングには、全員発言する機会を設けている。意見が言えない場合は、事前に聞くなどの対応をしている。	職員個々のスキルアップ等を含め、法人内の異動が行われている。毎回新たなチームワーク作りを行うと共に、入居者の混雑が生じないよう日々のケアに配慮している。食事作りや入浴回数等の現状と変更案に対する意見を職員個々に確認しながら、業務変更も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度が導入されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は、全職員平等に与えられている。資格取得についても職員にすすめている。また、職員それぞれに役割を分担し、責任感を持って取り組むようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内3グループホームの交流会、法人内で行われる研究発表などで、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は担当を持つことで、信頼関係を築き、困っていることや不安などを打ち明けやすい関係づくりをしている。また、できるだけ本人様の要望を聞くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者と職員は、家族が困っていることや不安、要望などを受け止め、安心して預けていただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所相談者は、在宅サービスを利用されている方々ばかりである。入所を待機されている方々には、他のサービスや施設の紹介をし安心していただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様のできることを見極め、できることはして頂き、できない部分のお手伝いをしていく。できた時には一緒に喜び、感謝の言葉かけを忘れず生活にメリハリをつけていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時など、近況報告をしたり、必要な時は電話連絡をし、情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族への面会や自宅へ戻りたいなどの要望は、できる限り答えるように支援に努めている。	出身地や生活歴を把握している。同郷の方同士で部屋を行き来したり、談笑される姿も見られている。外出自粛前は馴染みの場所のドライブや自宅訪問をされたり、家族が入所する施設訪問をされていた。家族や地域の方も訪問して下さり、楽しいひと時を過ごされていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男女問わず、気の合った人達で同席し、会話や作業、食事ができるように支援している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の初盆には、お供えをし、ご家族のグリーフケアを努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者には、全職員で対応するが、特に担当はより密に関わり、本人の思いを知り、要望に応えられるようにしている。また、その思いなどは、全職員に共有している。	生活歴等から、ご本人のお好きな事や得意な事を把握している。歌好きな方もおられ、唄って頂いている。日々の会話や行動から思いや意向を把握するように努めており、意思疎通が難しい方も表情やしぐさでお気持ちを察すると共に、家族との情報交換を続けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、生活歴を本人やご家族に聞き、ケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それまでの生活歴、現在の状況を把握し、ご本人ができることの見極めを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に、全職員で話し合うことで、いろいろな意見を取り入れ、作成し、共有に努めている。	センター方式の記録を増やしてこられた。生活歴や趣味、信仰等も記録し、各活動の「できる事」「できない事」の情報も残している。24時間シートも活用し、ストレッチ、口腔体操、ご本人の役割と共に、ドライブや地域行事も盛り込み、ご本人の「意向・好み」「自分でできること」等を整理している。	今後もセンター方式(B-3やD-1)の一番右欄の「私の願いや支援してほしいこと」の記録と共に、24時間シートが一番右欄「気づいたこと・注意点」の記録を増やしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの内容や日々の様子、気づきは個別記録に記入し、全体では申し送りノートを活用し、全職員で情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	足裏マッサージ機、あずきカイロ(肩から首を温める)、アイスノンを使用し、個々のニーズに合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大浜地区の老人会、小学校、ボランティアなどの協力を得ながら、行事などに参加することで暮らしの中にメリハリをつけられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からかかっている医療機関を継続し、定期的に受診している。受診時には、必ず職員が同行し、情報交換を行い、気軽に相談や協力が得られる関係ができている。	センター方式C-1-1を活用し、心身の情報を丁寧に確認している。受診時はバイタルチェック表を主治医に見て頂き、他科受診時も含めてアドバイスを頂いている。体調変化時は主治医や訪問看護師が来て下さり、職員の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と委託契約し、週一回訪問して頂いており、看護職と介護職の連携は密に取れている。入所者の異常時は直ぐに訪問看護に連絡し連携は取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者が入院した時は面会に行き、主治医、担当看護師、ご家族との情報交換を行い、早期退院に向けて働きかけを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については、早い段階から本人様とご家族様の意見を聞いている。主治医、看護師などと支援方針を共有している。今後もご希望の方、ご家族には、ホームでの看取りをさせて頂く予定である。	「ここで最期まで・」「ここがよかよ」と言われる方が多く、健康管理書(事前確認書)も頂いている。看取りの時期は管理者や家族も泊まり、看取りケア(エンゼルケア)も一緒に行われ、ご本人の着物を着て頂く事もできた。医療ニーズが高い方は主治医と家族と相談し、入院になる方もおられ、体調に応じて今後の生活場所の検討をされている。	今後も看取りケアに関する勉強会を行い、全職員の知識と意識を高めていきたいと考えている。入居者ごとに主治医が異なり、今後も24時間体制の往診状況を再確認すると共に、往診が叶わない場合の医療連携の在り方を検討していく予定である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、毎年定期的に訓練や研修を行い、全職員が訓練に参加し研修も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に避難訓練を実施している。また、周辺住民への方々へも協力をお願いしている。	昼夜想定防災マニュアルを作り、日々の防災チェックも続けており、自動火災運動装置には隣家の方も登録されている。同じ地域のホーム(3つ)とも協定書を取り交わし、お互いの訓練に参加している。消防団は3つのホームを1年に1か所の割合で訓練に参加して下さっている。食料等の備蓄(山菜おこわ50食・白米50食・赤飯50食・五目御飯50食・わかめご飯50食・ミネラルウォーター2リットル×6本)もしている。	毎年、年2回(5月と11月)の予定で消防署と一緒に昼夜想定避難訓練を行っていたが、2020年度は新型コロナの影響で訓練ができていない。今後はホーム単独の自主訓練を企画すると共に、春から職員も新体制になっているのでマニュアルの再確認もしていく予定である。備蓄は行っているが、今後は飲料水も増やしていく予定である。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方、一人一人に合わせた声かけ、丁寧な言葉使いをし笑顔で接するよう努めている。	職員は声かけも優しく、ご本人のペースに応じた支援を続けている。排泄時の声の大きさに注意し、入浴時を含めて羞恥心の配慮をしている。個人情報漏洩に関する指導も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせたケアや声かけを行い、その都度自分でできることはして頂くように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者一人一人の性格、体調、望みなど、ご本人の状態に合わせて、希望に沿った生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用したり、毎日同じものを着ない、寝ぐせをなおす、ひげを剃るなど毎日行うように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人、できること(料理の下ごしらえ・味見・片付け・テーブル拭きなど)をしていただくことで、食事の時間が楽しい時間になるように努めている。	令和2年5月から副食調理を外部委託に変えているが、入居者も小皿の盛り付けやジャガイモの皮むき等をして下さる。おやつは手作りが多く、「甘酒」「蒸しパン」「チーズケーキ」等を楽しまれ、毎朝、入居者の方々は豆乳ヨーグルトを飲まれている。昼食時は職員も一緒に食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	令和2年5月から食事提供を外部委託にし、栄養面などの心配もなくなった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人、口腔ケア実施している。自力でできる方も最後の確認は行い、できない方は、介助している。口臭が気になる方には、舌磨きの声かけやマウスウォッシュの使用を促している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、その方に応じた支援を継続できている。日中は、ほとんどの方が、トイレかPWCに必ず行き、パッド内失禁が減るように支援している。	水分量の調節や排泄パターンを把握し、日中はオムツ無しで過ごされている。布の下着(ハット)を使用する方もおられ、必要に応じて事前誘導を行っており、失禁も少しずつ減っている。トイレや部屋のドアを閉め、ご本人から見えない所で待機するなど、羞恥心の配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便チェックを行い、水分量の調節、毎朝豆乳ヨーグルトの提供、歩行ができる方は歩行距離の調節、トイレやPWC時の座位保持の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日にちは決めているが、体調不良や受診日など、日にちの変更をするなどの対応をしている。また、時間帯や順番は、その日その日で希望を聞いて行うようにしている。	機械浴が設置されており、1人ずつお湯を入れ替え、安心して入浴できている。入浴時は職員との会話を楽しみ、歌も聞かれ、できる所は洗って頂いている。週2回の入浴になっており、毎日の陰部洗浄や清拭を行い、日々の爽快感に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて消灯時間をずらしたり、テレビやラジオを使用したりする。夜間は、ゆっくり眠れるように、尿器を使用したり、おむつを使用したり、交換時間を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後、薬の変更があった時は、その日のうちに職員間で申し送りをし、情報共有に努めている。また、変更後の状態観察を行い、主治医や看護師に報告できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のできることを好きなこと、得意なことをして頂くことで、日々の生活が楽しい時間になるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩が日課だった方は、職員付き添いにて決めた時間に散歩を行ったり、自宅を見に行く、妻の面会に行く、買い物支援を行うなどご家族が可能な場合は、一緒に支援に加わっていただいている。	コロナ以前は住吉神社に初詣に行かれたり、荒川温泉での足湯、富江町の鯉のぼり見学、福江ダムのツツジ見学、崎山で桜の花見をしながら、お弁当を楽しまれたり、藤の花見や海浴いのドライブを楽しまれていた。海を眺めながら「ミナ取り」等の思い出話になることもあり、今後もコロナ終息後のドライブを楽しみにされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方以外は、お金の所持はしていない。一部の方は、小銭程度は所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望に合わせて、電話をかけたりしている。手紙のやり取りはしていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、見えるところにカレンダーを掲示したりしている。また、季節ごとに行事に合わせて飾りなどを変えている。	庭には花(藤の花・向日葵等)や野菜(芋等)が育ち、花見をされている。リビングでは入居者同士の関係性に配慮し、室温等の配慮や換気、掃除も続けている。畳で洗濯物たたみをされたり、廊下の椅子に座り、日向ぼっこをされている。リビングの掃き出し窓は外との段差が大きく、施設長にベランダ等の設置をお願いしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席順を気がけたり、廊下の2か所にソファを置くなど、居場所の工夫はできている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや置物など、思い出の品やなじみのものを自室に置くことで、自宅と近い空間になるよう工夫し、居心地のよく過ごしていただけるよう努めている。	自宅からタンス・テレビ・写真・布団・椅子・植物・本人が作った作品などを持ち込まれ、大好きな演歌歌手の写真なども飾られている。入室を拒まれる方もおられ、必ずご本人に了承を得るようにしている。「花が好き」と言う方もおられ、居室から見える所に花壇が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーになっている。廊下・トイレ・浴室には手すりをつけている。また、夜間にトイレに行く際、見えやすいように明かりをつけて対応している。		